

日本のハロウィン文化について

京築支部 京築県土整備事務所 竹井理紗

ハロウィンは、近年急激に日本文化に浸透してきました。ハロウィンとは、5~6年前では、「そういった文化もある。」といった程度の認識でした。それにも関わらず、今年は、バレンタインの経済効果も抜いたとの報道もありました。

日本人のお祭り気質と、コスプレ願望はあるがコスプレをするための理由がない、といった事柄とよくマッチしたということが、ハロウィン浸透の理由であると考えられます。

昨今の日本では、パーティピープル(以下、パリピ)と称される若者が増えています。このパリピとは、事あるごとにパーティーを開きたがり、どんちゃん騒ぎをしたい人の事をいいます。お祭り気質が強い人は、“パリピ”と称されるようになったのです。

ハロウィンは、そういったパリピたちの格好の的となったのでしょう。

また、ハロウィンが浸透したことについて、考えられる二つ目の理由「コスプレ願望はあるけれども、するための理由がない」について、私は日本人の“恥じ”の文化と合わせて考えていきたいと思います。日本人にはかねてより“恥じ”という文化があります。その“恥じ”とは、日本人においては美徳であり、海外の人からしてみれば日本人の不思議なところの一つとなります。日本語に「むつつり」という言葉があります。これは、日本人の恥じの文化と非常にマッチしており“恥じ”があるばかりにむつつりな日本人は非常に多いと考えられます。そもそも、むつつりとは興味があるのにそれについて無関心でクールであるように見せる事です。これは私的な考えですが、日本人にコスプレ願望がある人間は多いと考えられます。これは、コスプレのあるプリント倶楽部が人気であったり、ドン・Oホーテのコスプレコーナーにいくと高確率でカップルがいるということ、忘年会などでコスプレをする人が多いということ、等の理由があります。日本人はコスプレ願望のある人が多いのです。しかしながら、日本人はむつつりなのです。むつつりががつつりになるには、どうしても“理由”が必要なのです。そういう生き物なのです。その理由としてうまく噛み合ったのが、海外で“子供が仮装をして練り歩く”というハロウィンの文化であったと考えられます。“子供が仮装をして練り歩く風習”が“大人が仮装をしてどんちゃん騒ぎ”と噛み合うのか？という疑

問はありますが、人間というのは自分のいいように、解釈を歪曲する生き物です。そういう生き物なのです。

元はと言えば、ハロウィンとはケルト人の行う収穫祭のことで、実はキリスト教とは関係がないのです。なんとなく、クリスマスと同様にハロウィンもキリスト教の由来のものであると考えている人は多いようです。

ケルト人の1年の終りは10月31日で、この夜は夏の終わりを意味し、冬の始まりでもあり、死者の霊が家族を訪ねてくると信じられていたが、時期を同じくして出てくる有害な精霊や魔女から身を守るために仮面を被り、魔除けの焚き火を焚いていた。これに因み、31日の夜、カボチャをくりぬいた中に蠟燭を立てて「ジャック・オー・ランタン」を作り、魔女やお化けに仮装した子供たちが近くの家を1軒ずつ訪ねては「トリック・オア・トリート (Trick or treat. 「お菓子をくれないと悪戯するよ」と唱える。家庭では、カボチャの菓子を作り、子供たちはもらったお菓子を持ち寄り、ハロウィン・パーティーを開いたりする。お菓子がもらえなかった場合は報復の悪戯をしてもよい(Wikipedia 参照)という文化なのです。ちなみに、私は、最近のハロウィングッズによくある“Happy Halloween”という言葉には甚だ疑問を感じざるを得ない日々を過ごしております。

ここで話は変わり、私の話をさせていただきます。

今年のハロウィンは私も参戦しようと思い、一般的なハロウィンの衣装を用意しておりました。私に外に出る勇氣はなく、室内で友人と三人でホームパーティーをする予定でした。

しかしながら、当日、北九州の某テーマパーク、スペース○ールド(宇宙世界)の前を通り過ぎたとき、仮装の列がありました。それに心ときめき、友人と共にスペース○ールドに繰り出すことを決意しました。

だがしかし、私にとって仮装で外に出ることは非常に敷居が高いことでした。私の持参していた一般的な衣装では、恥じらいが勝ってしまいとてもじゃなく外に出ることが出来なかつたため、ドン・○ホーテ(激安ジャングル)に衣装を買いに行きました。そこで、私と友人二名は

- ・ 皮膚が出来るだけ隠れること
- ・ 恥じらいの少ない衣装であること
- ・ 存分に楽しむことができること

に主眼を置き、衣装の選定を行いました。



そこで、私たちは出会ってしまったのです。このすべてをかなえる魔法の衣装に……。

完全に皮膚があますところなく隠れ、顔も隠れ、存分に楽しむことができます。すべてにおいてパーフェクトな衣装です。

これを即買いし、スペースワールドに突入です。

小さい子供たちに声をかけられ、手をふられ、握手を迫られ、気分は完全にヒーローです。



大人の方に話しかけられ、答えると「あっ…。全員女の子…。」と、ドン引きをされます。多くの人から「一緒に写真を撮ってください。」とせがまれます。気分は完全にスーパースターです。



上記の写真を撮っているときなどは、周囲の人から何枚写真を撮られたことかわかりません。何枚ネット上に私たちの画像が流出したかはわかりません。怖い時代です。

しかし、この日の私たちの合言葉は“ノーリスクハイリターン”です。顔も何も出ていないので恥ずかしいことは何ともありません。堂々と手をふり、人との触れ合いを楽しみました。

子供たちから声援を浴び、たくさんの人を笑顔にできる。こんな素敵な体験はこんなことをしないかぎり、経験できなかったと思います。

園内から出るとき、50組くらいが写真と一緒にとりたいと並ばれ、テーマパークの入り口で30分ほど立ち往生してしまったのも、今となってはいい思い出でございます。結論として何かというと、こういったことで笑いあえる、人々の心が温かい福岡県とは素敵な県だと思います(?)

是非、来年のハロウィンの参考にされてはいかがでしょうか。

皆さんのハロウィンに幸がありますように。

Happy Halloween!